



# NiCE

---

## StorageGRIDをサードパーティのレイヤー7ロードバランサーのIPベースで動作するように設定する方法

[https://kb-japan.netapp.com/hybrid/StorageGRID/Protocols/How\\_to\\_configure\\_StorageGRID\\_to\\_work\\_with...](https://kb-japan.netapp.com/hybrid/StorageGRID/Protocols/How_to_configure_StorageGRID_to_work_with...)

Updated: Tue, 22 Sep 2026 11:31:19 GMT

### 環境

- StorageGRID アプライアンス
- StorageGRID 11.4以降
- IP based

## 概要

- この記事は、NGINX や HAProxy などの外部レイヤー 7 ロード バランサーを 1 つ以上使用し、S3 バケット またはグループ ポリシーがIP ベース の場合、StorageGRID 11.4.0 以降に適用されます。StorageGRID は 実際の送信者の IP アドレスを特定する必要があります。

S3バケットまたはグループポリシーでは、ポリシー条件キー`aws:SourceIp`とポリシー変数

`${aws:SourceIp}`は、S3リクエストの送信者のIPアドレスと比較されます。

- 外部（サードパーティ）レイヤー7ロードバランサーを使用してストレージノードにリクエストをルーティングする場合、StorageGRIDは実際の送信者のIPアドレスを特定する必要があります。これは、ロードバランサーによってリクエストに挿入される**X-Forwarded-For**（XFF）ヘッダーを確認することで行われます。
- **X-Forwarded-For**ヘッダーは、ストレージノードに直接送信されるリクエストでは簡単に偽装できるため、StorageGRIDは各リクエストが信頼できるレイヤー7ロードバランサーによってルーティングされていることを確認する必要があります。StorageGRIDがリクエストの送信元を信頼できない場合、**X-Forwarded-For**ヘッダーは無視されます。
- StorageGRID 11.4以降では、信頼できる外部レイヤー7ロードバランサーのリストを設定できる新しいグリッド管理APIが追加されました。この新しいAPIは非公開であり、将来のStorageGRIDリリースで変更される可能性があります。